

# NECのデータマネジメントの取り組み

2025年12月19日

日本電気株式会社

コーポレートIT戦略部門

データ&アナリティクス統括部

川嶋 葵

# 登壇者プロフィール

## 2025年度 ビジネスユニットレベル組織体制

As of 2025.12.1



コーポレート IT 戦略部門  
データ & アナリティクス統括部



## 川嶋 葵

Aoi Kawashima

NEC  
コーポレートIT戦略部門  
データ&アナリティクス統括部  
データマネジメントグループ  
ディレクター

- 入社以来、情報システム部門で、全社規模のIT改革や業務プロセス改革プロジェクトに参画するなど、社内ITに従事。
- 2018年度、One Dataプラットフォームの前身となるデータ利活用基盤を立ち上げ、データ利活用の社内サービスを展開。
- 2022年度、データマネジメントの専門組織を立ち上げ NECのデータドリブン経営の中核となるデータマネジメントをリード。
- 現在は、データ戦略、データ／コード標準化のCoEとして NECグループ全体のデータガバナンスに従事。

# 目次

1. コーポレート・トランスフォーメーション
2. データドリブン経営の目指す姿
3. データマネジメント

# 1. コーポレート・トランスフォーメーション

## 成長を支えたコーポレート・トランスフォーメーション

— 2012 — 2017 — 2018 — 2019 — 2020 — 2021 — 2024 — 2025 —

構造改革断行

2018中計  
取り下げ

カルチャー変革 RISE 1.0  
「変わることの拒絶」を払拭、変化の受容へ

カルチャー変革 RISE 2.0  
「変わり続けることが文化」の会社

NECの存在意義の見つめ直し  
安全・安心・公平・効率

カルチャー変革本部設立  
社長タウンホールミーティング など

人・カルチャーの変革

グローバルシステム基盤構築

経営がコミットしDXに着手

本格的なコーポレート・  
トランスフォーメーションを加速

2008  
基幹システム再編  
(SAP ERP導入)

2014  
シェアードサービス化  
(NECマネジメントパートナー設立)

2016  
オンプレデータ利活用基盤導入

変革タスクフォース

経営幹部による変革タスク  
フォース活動とコミットメント



DX Agenda策定

人・組織・文化の変革を含め  
改革を牽引する 9 Drivers



- nec.comドメイン一本化
- OneNEC.com（情報共有基盤）

CEO直下 “Transformation Office” 設立



2021/6/14  
コーポレート・  
トランスフォーメーション  
変革プロジェクト 記者会見

経営・事業の高度化、組織対応力強化により  
ビジネスアウトカム創出

「クライアントゼロ」として  
“活きた変革ノウハウ”をお客様と社会に還元

中計目標

戦略

EBITDA成長率 年平均9%

文化

エンゲージメントスコア50%

## 全社エクスペリエンス変革

### 働き方のDX



多様な人材が集う  
選ばれる企業

人の力を解き放つ  
モダンワーク

### 営業・基幹業務のDX



プロセスを変革の要に  
データを価値に

データドリブン経営 &  
マネジメント変革

### 運用のDX



Digital Native  
統合運用モデルへ

人はより付加価値の  
高い領域へシフト

### 統合エクスペリエンス

シームレスな体験・プロセス変革による“つながる”価値創出（デジタルID、ServiceNow、Celonis）

### DATAプラットフォーム

One Data / One Place / One Fact で企業価値を最大化（ダッシュボード、データカタログ）

### ITインフラ & セキュリティ

クラウドネイティブでセキュアな次世代プラットフォームによるアジリティ & レジリエンス実現

## 2. データドリブン経営の目指す姿

# NECのデータドリブン経営

経営層から社員まで同じデータでファクトに向き合い、未来志向のアクションへデータを起点にビジネススピードを最大化

## ファクトに向き合う

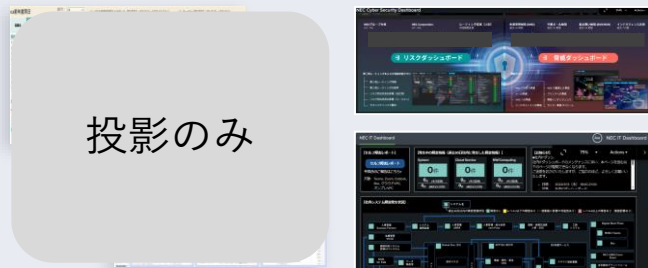
経営コックピット



ダッシュボード  
(CxO領域ごと)

10領域98種

投影のみ



End to End プロセス標準化

ベースレジストリ整備

KFP（経営・ファイナンスプロセス刷新PJ）による  
一気通貫でデータが流れるコーポレート経営基盤

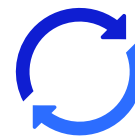
## アクションを実行

迅速な意思決定



経営層

1. 報告を待たず、  
自ら状況を把握し課題を特定
2. スピーディな指示



同じデータを共有

プロアクティブな対応



社員

1. 課題を深掘り検討
2. 提案・実行



# データの民主化

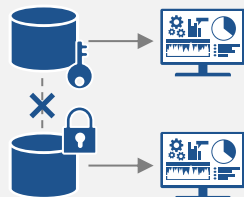
経営ダッシュボードを基軸にデータを民主化し、データドリブン経営の変革を目指す。

## これまでの課題

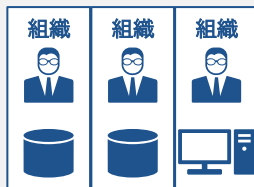
必要なデータがすぐに使えない  
(データのサイロ化)



ほしいデータが  
みつからない



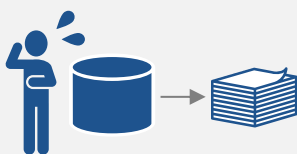
ばらばら  
(データ結合困難)



組織毎にデータ整備  
(組織固有)



組織毎のレポート  
でマネジメント



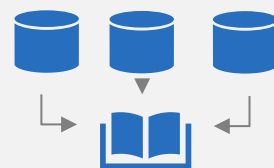
資料作成に忙殺  
検討不十分



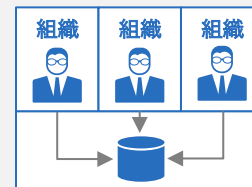
勘・経験・度胸に  
基づいた意思決定

## 目指す姿

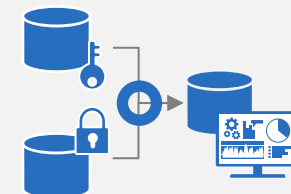
必要な時に必要なデータが使える  
(データの民主化)



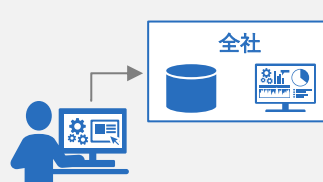
データの所在管理



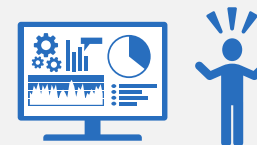
データ標準化/一元化  
(共通言語)



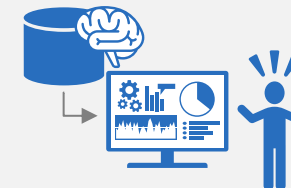
コード標準化  
(データ結合容易)



標準レポートで  
マネジメント



資料作成から解放  
検討に注力



BI×AI等の分析に  
基づいた意思決定

# データドリブン経営の取り組み

各CXOと連携して、**One Data・One Place・One Fact**でのデータドリブン経営を実現  
経営ダッシュボードを基に意思決定できる**マネジメント変革**

One Data

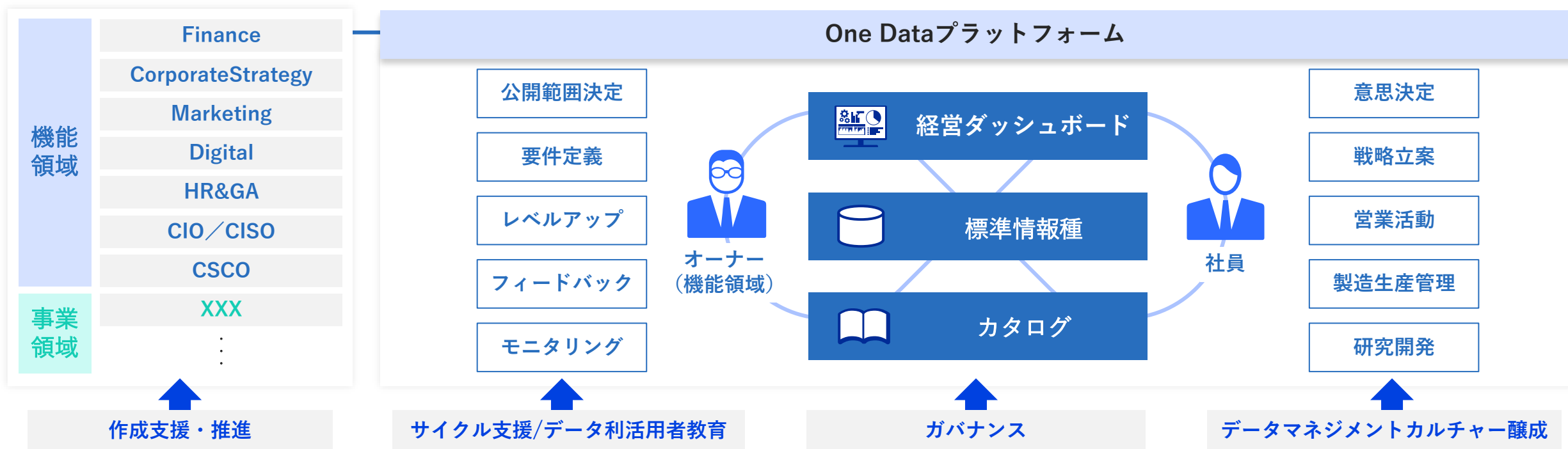
データを共通言語化（標準情報種/カタログ）

One Place

標準情報種・カタログの一元管理  
オーナーがデータ・レポートの信頼性を確保

One Fact

経営ダッシュボード・標準情報種を基に実現



## 3. データマネジメント

# データドリブン経営に必要な要素

組織全体で同じ方向を向くために**戦略**が最重要。その上でベースとなるデータを蓄積・分析するための**仕組み**を構築し、全社員がデータに基づいた意思決定を適切に行うための**ガバナンス**が必要となる。

## 戦略



### 戦略策定

データドリブン経営における目的、戦略・構想、ロードマップの策定

## 仕組み



### 基盤

データを集め活用するための柔軟な基盤の整備



### 分析/AI

状況に応じた適切な分析・解析やデータ整備の支援

## ガバナンス



### 組織/統制

データマネジメント組織の組成とガイドライン整備



### 人材

社員の習熟状況に合わせて成長を促す人材育成、カリキュラム整備など




### 文化

データ活用文化醸成のための施策の実行など


# データドリブン経営に必要な要素 ～ 戦略 ～

 戦略策定

 基盤

 分析/AI

 組織/統制

 人材

 文化

# データドリブン経営の基本戦略

- 基本戦略としてガバナンス/プロセス/レポート/データの観点で整理。
- 領域別(CxO)に基本戦略について合意し、レポート・データの乱立を防ぐ。

## Governance

### CxOのオーナーシップ獲得

- 領域別オーナーシップの明確化
  - ✓ 各CxOが自領域のデータ利活用を推進することで、データドリブン経営の全社展開を加速

## Process

### Quick Winと改善

- アジャイルな開発の導入
  - ✓ すべての成果物を迅速に開発・公開し、利用者からのフィードバックを基に精度を向上

## Report

### 事業経営レポートの一元化

- 経営ダッシュボードの構築
  - ✓ CxO領域ごとにダッシュボードを構築し、全社員がアクセスできるサイトに一元化

## Data

### データの共通言語化/一元化

- 標準情報種・カタログの構築
  - ✓ CxO領域ごとに共通利用のために結合・加工したデータ（標準情報種）と、データを迅速に見つけるためのデータ辞書（カタログ）を作成し、一元化

# データドリブン経営に必要な要素 ～ 仕組み ～



戦略策定



基盤



分析/AI



組織/統制



人材

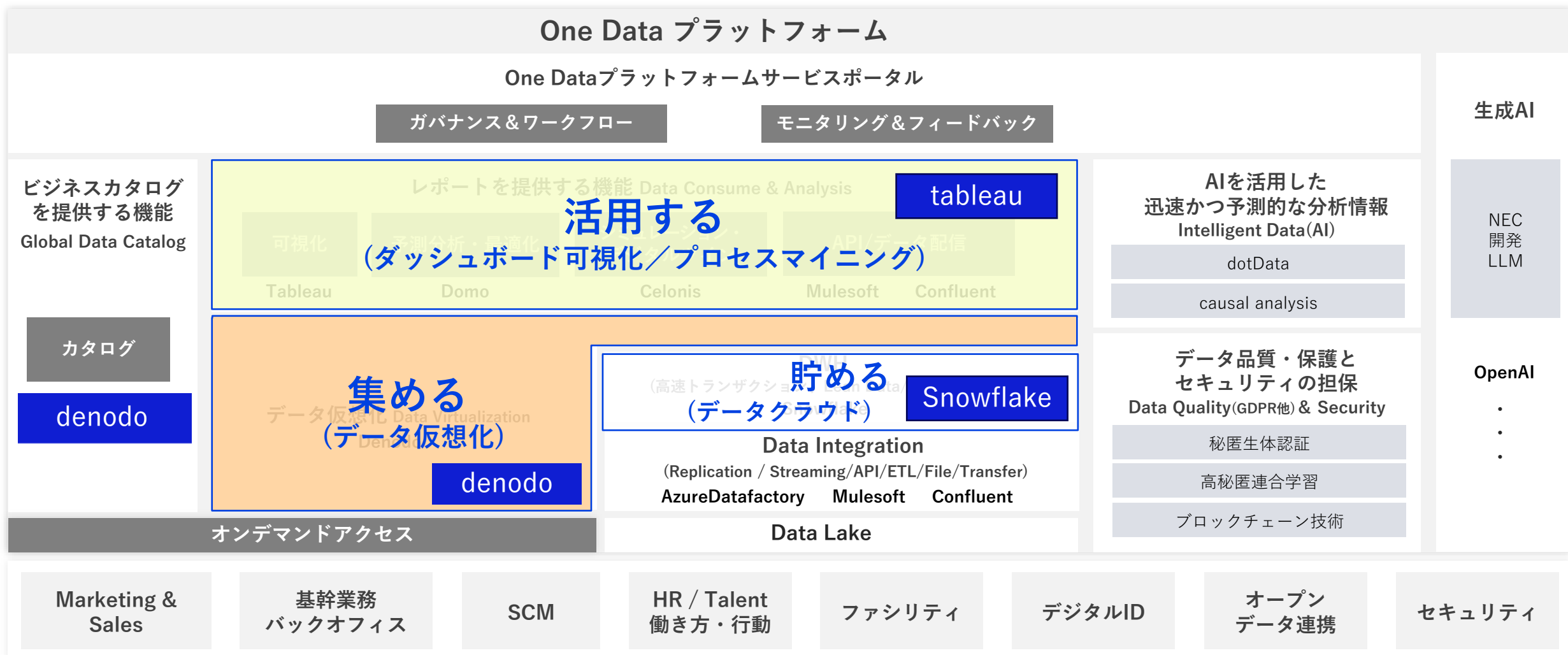


文化



# データ利活用基盤

データを仮想化することで、一元管理をスピーディに実現  
「Quick Win + スケール」「アジャイル」な仕組みで、社内のデータ活用を促進





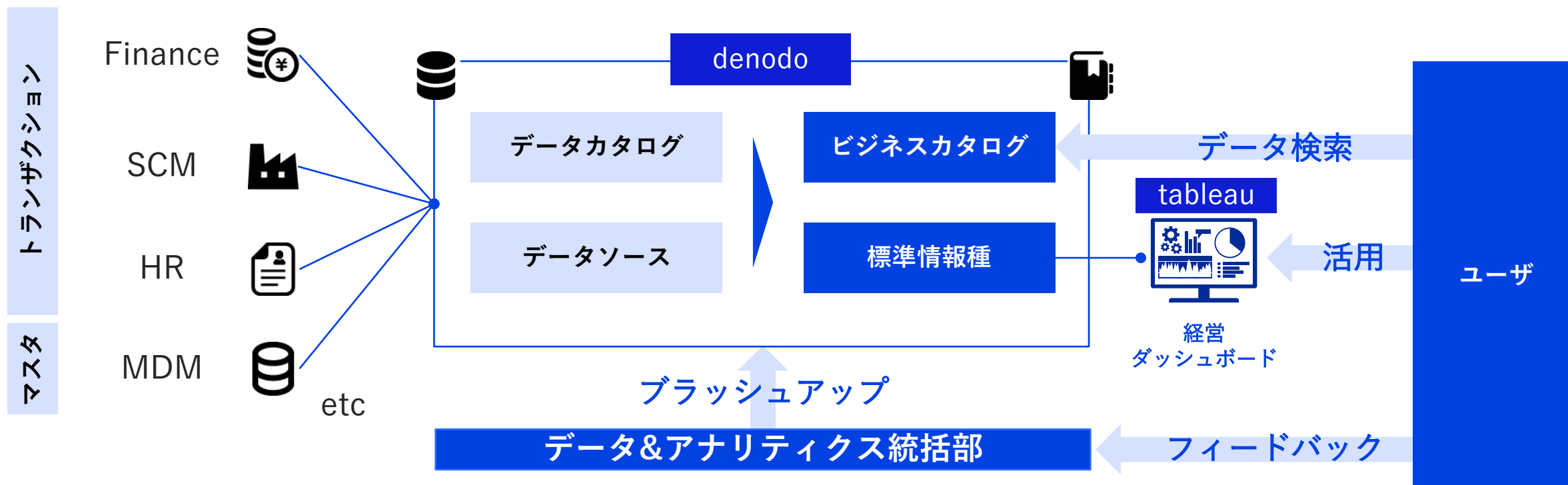
# ビジネスカタログ（標準情報種による共通言語化）

各種システムのデータを、一般のユーザがデータ利活用し易いように編集  
ビジネスカタログ・標準情報種として一元化して提供することでデータの民主化を図る

システム起点のデータ整備

ビジネスデータとして活用・ブラッシュアップ

システムデータを汎用的で利活用可能なビジネスデータへ



# 経営ダッシュボード

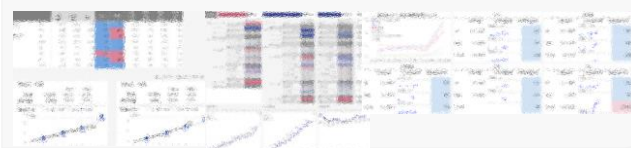
CxO領域ごとのダッシュボードを一カ所に集約（CxO領域10領域・ダッシュボード98種）

誰もが知りたい時に知りたい情報にアクセス

## COO(Social Infrastructure)



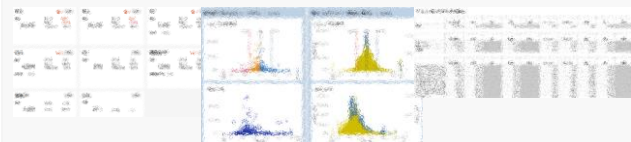
COO 山品正勝



## Finance



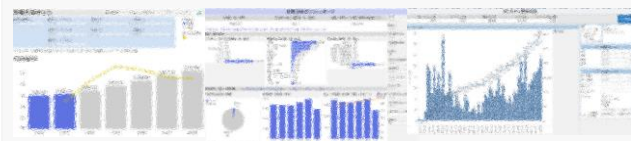
CFO 藤川修



## Corporate Strategy



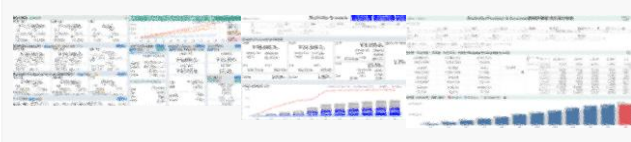
CFO 藤川修



## Digital



CDO 吉崎敏文



## Human Resources & General Affairs



CHRO 堀川大介



## Information



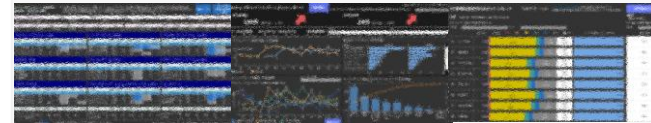
CIO 小玉浩



## Information Security



CSO 中谷昇



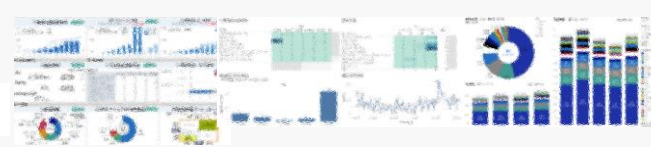
CISO 淵上真一



## Supply Chain



CSCO  
井手伸一郎



## Marketing



CDO 吉崎敏文



## Technology



CTO 西原基夫



# 経営コックピット

ダッシュボードから経営として特に重要なものをピックアップして掲載  
経営層～社員がクイックに確認、影響度合いに応じダッシュボードで詳細確認

ESG経営  
指標

新ブランドの  
成長度合い

社員の  
エンゲージメント

セキュリティ  
インシデント

IT障害状況

CEO・CFO自ら執務室やスマホで活用



# データドリブン経営に必要な要素 ～ ガバナンス ～



戦略策定



基盤



分析/AI



組織/統制



人材



文化



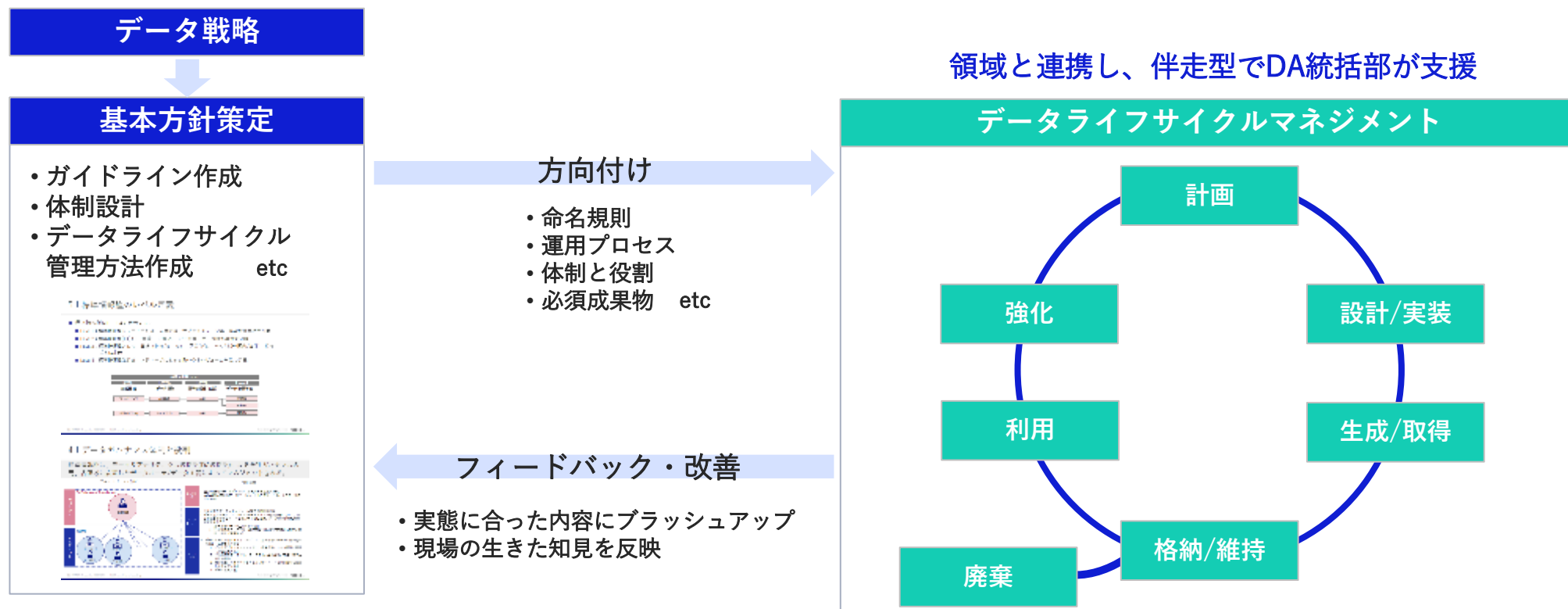
# データの統制

DA統括部がデータマネジメント全体を統治するための基本方針を策定し、改善点を随時反映。領域とDA統括部が連携して実行することで、ガバナンスの効いたデータマネジメントを実現

【凡例】

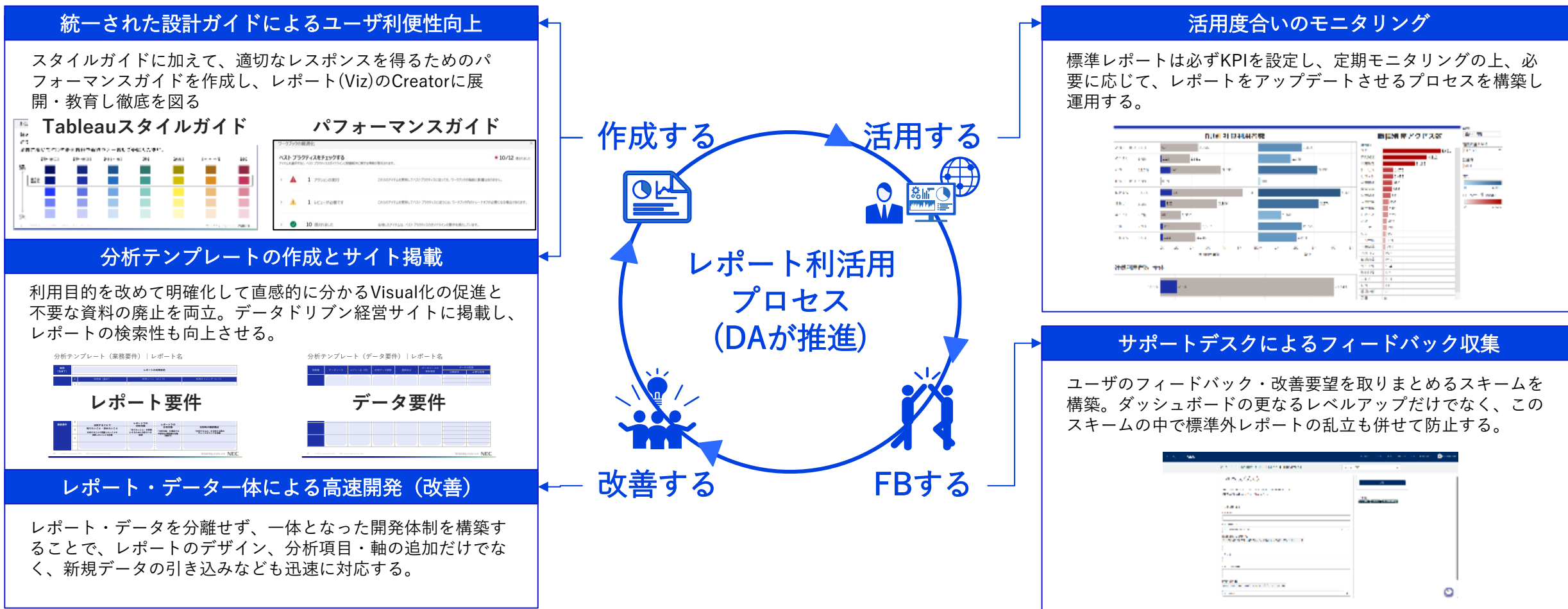
DA統括部

領域



# レポートの統制

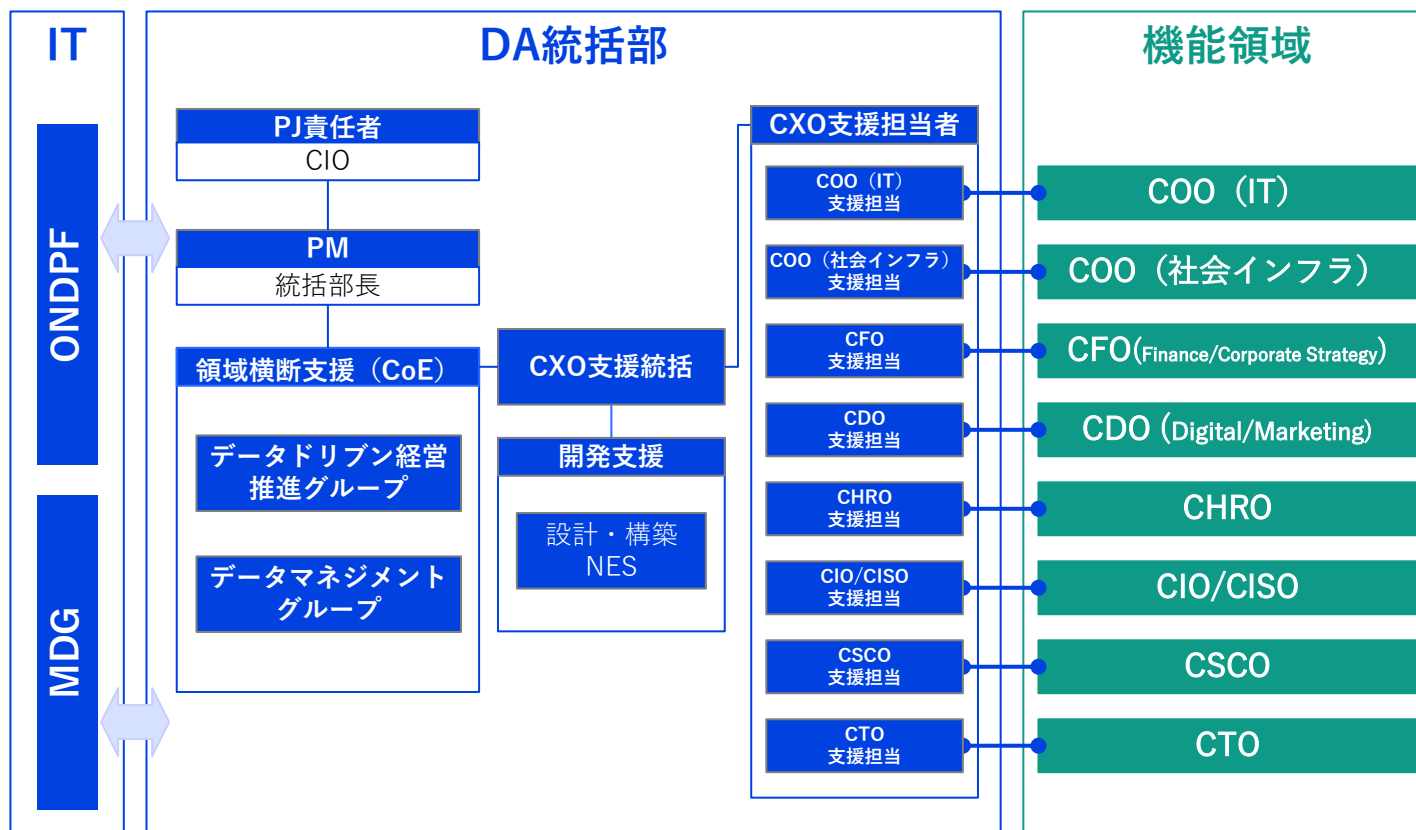
レポート利活用プロセスのポイント毎に具体的な施策を展開することで、開発スピード・ユーザ利便性を向上させるとともに、モニタリング・フィードバックを通じてガバナンスを強化



# 経営ダッシュボード推進体制

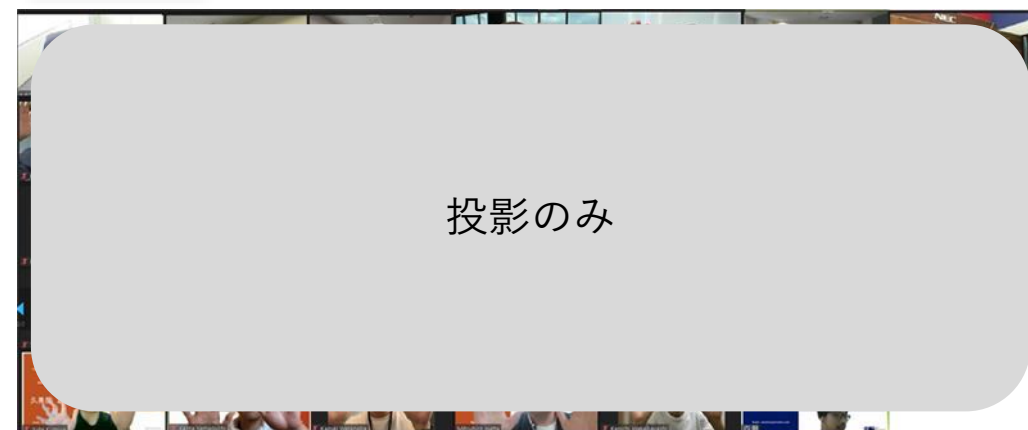
領域オーナー(CxO)のリーダーシップのもとで経営ダッシュボード開発を推進  
オーナー会議でCxO自らが事例や活用方法を紹介することで、想いを前向きに繋いでいく

## 経営ダッシュボード推進体制



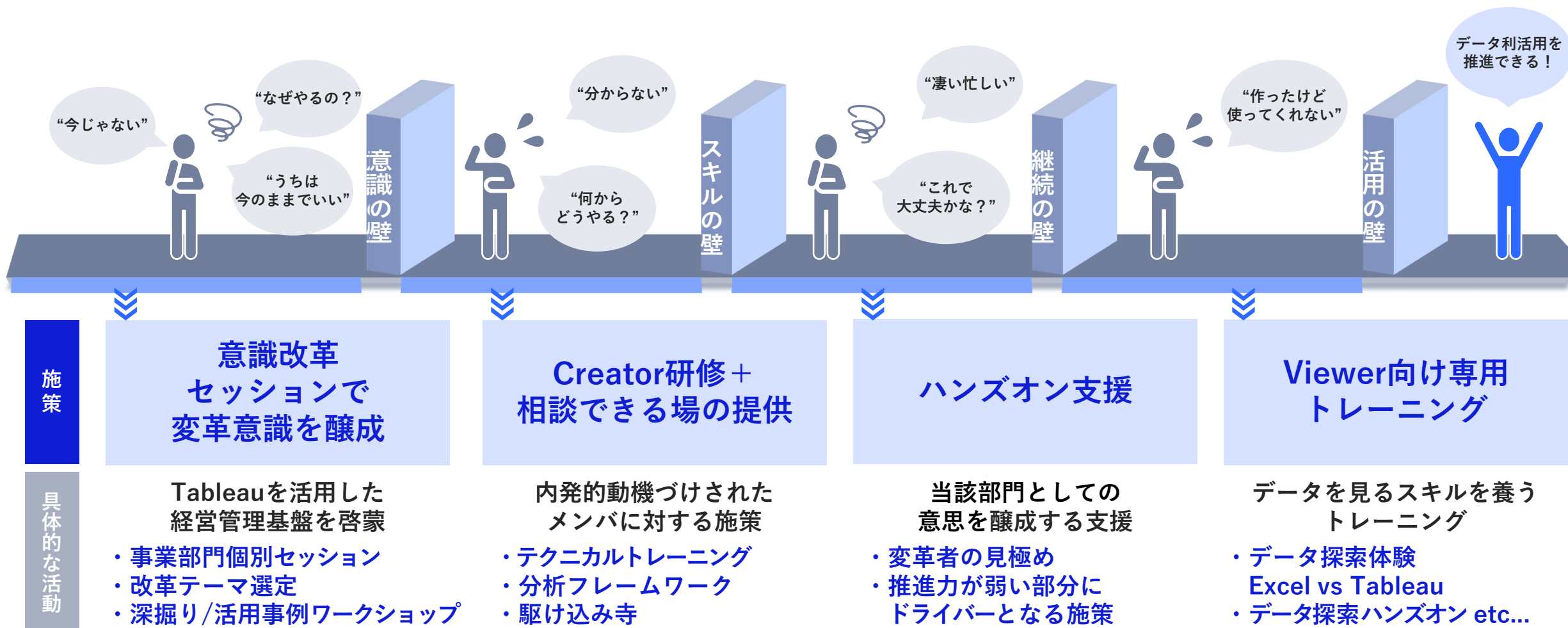
## 経営ダッシュボードオーナー会議

目的	・ 経営ダッシュボードの推進力・想いの維持
アジェンダ	・ 経営ダッシュボードの事例・活用方法の共有 ・ 領域横断の課題に関する討議
開催頻度	・ 四半期ごと
参加者	・ CxO、領域主管、DA統括



# データ利活用の壁と施策

- ・ 全社横断でのデータ利活用を推進する中で、次々に新しい壁が発覚
- ・ 現場とのコミュニケーションをとり、それぞれ対策を講じて壁を乗り越えることが重要





# NECのデータドリブン経営に向けたポイント

経営層の  
オーナーシップ

ビジョン・方針  
を描く

Quick Win  
と改善

全社横断の視点を持つデータ専門組織  
- 強い想い -